

◇ 学 校 通 信 ◇

令和 7 年 2 月号

令和7年1月31日発行

桶川市立加納中学校

加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.edmap.jp>

《校 訓》 自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 367名

『人を遺すを^{のこ}上^{じょう}とする』～未来を生きる子供の育成～

校長 矢澤 等

表題の言葉は、プロ野球界で、選手・監督として活躍された野村克也さん（ヤクルト・阪神・楽天で監督を歴任）が生前おっしゃったものです。『財を遺すは下 仕事を遺すは中 人を遺すを上とする』というものです。意味は、「財産を築いたり、仕事で業績を上げたりすること以上に、人を育てることは難しく、それゆえ価値がある」となります。選手の良さを見つけ、育て、活かす野村さんらしい素敵な言葉であると思っています。

もう25年以上も前のことですが、野村さんが、阪神タイガースの監督に就任したとき、選手たちをスーツ姿で集合させ、「野球と人生」という演題で講演を行いました。その要旨は『人生を考えない者には、今何をすべきかが見えてこない』というものだったそうです。新人とベテランでは選手として残された時間も違い、学ぶべきことも取り組むべきことも違ってきます。目の前のことだけでなく、5年後や10年後（人生）に目を向ければ、今やっておくべき大切なことに気づくことができるということなのでしょう。

私たちも、生徒の育成に向け、「時にほめ」「時に叱り」「時に励まし」「時に鍛え」「時に見守り」ながら関わっています。大切なことは、「子供自身が伸びようとする力」に働きかけ、成長を促すことだと考えています。発達段階に応じて、関わり方の距離感やバランスには悩みますが、難しさゆえのやりがいも感じています。保護者の皆様も同様かと存じます。

先日、桶川市民ホールで行われた『20歳を祝う会』で、恩師と教え子が再会の喜びを語り合う素敵な光景が、学校ごとに見られました。立派に成長した教え子たちから近況報告を受けるのは、この上ない喜びです。野村さんの言葉の重みを感じながら、未来を生きる子供たちの育成に向けて、今後も学校として取り組んでまいります。